



地球環境基金助成金
説明会・セミナー

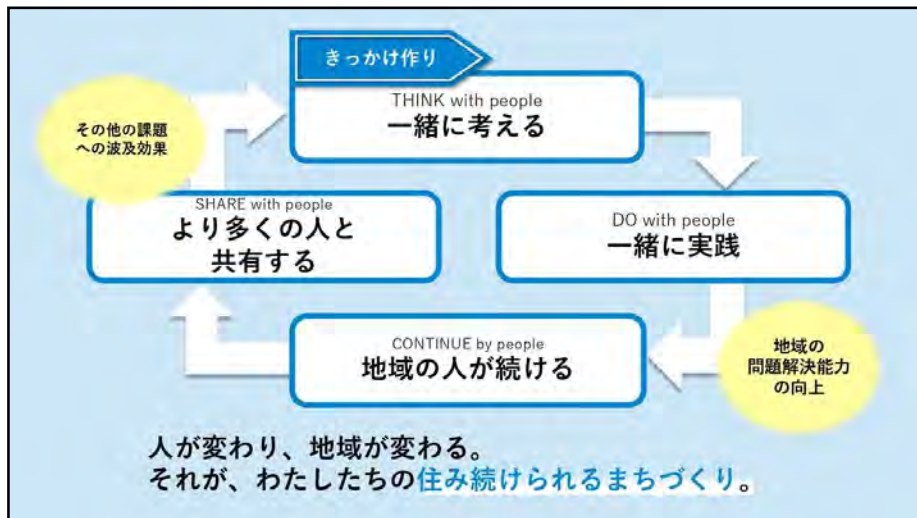
2021年10月22日
認定NPO法人日本ハビタット協会
太田 祥歌
(若手PL5期生)

Japan Habitat Association

日本ハビタット協会とは



国連ハビタットの理念を共有し、市民とともに、世界中の人々が、より良い暮らしができ、安全で安心して住み続けられるまちづくりを推進します。



Our Philosophy

まちづくりで大切にしている5つのこと



持続性あるまちづくり



女性と子どもにやさしい



住民が主体



ステークホルダーとの協働



国連ハビタットの理念

Lao P.D.R

ラオス人民民主共和国



東南アジアの内陸国：社会主義国
面積 約24万km²
人口 約680万人(2015年)
→日本の本州と同じくらいの広さに
埼玉県と同じくらいの人口

民族 50の民族で構成
国民の約8割が農業に従事
(平均月収4~5万円)
国土の約7割が山岳地域



プロジェクトが目指すもの

ルアンパバン県の学校で環境教育の教材開発、人材育成が行われ、
教育プログラムが定着する。活動を継続していくために必要な現金収入が向上する。

ラオス国、ルアンパバン県において、環境教育システムが構築され、地域の大学と
連携し、教育局、学校主体で継続的に実施され、環境教育を受けた生徒達を中心に、
地域で環境保全活動の取り組みが促進される。

Environmental Education Project

環境教育プロジェクト



大学生の環境リーダーが地域の中学生に教える

Environmental Education Project

環境教育プロジェクト

4年生



森林保全

5年生



ゴミ問題

6年生



農業

Environmental Education Project

環境教育プロジェクト

1

知識



2

実践



3

収入



プロジェクトが目指す成果と達成度合いの概要

(目標)

ルアンパバン県の学校で環境教育の教材開発、人材育成が行われ、教育プログラムが定着する。活動を継続していくために必要な現金収入が向上する。

(指標)

- ・教員アンケート調査による教材満足度80%→100%達成
- ・教員アンケート調査による教材活用度70%
→完全に教員だけの活用には至らず、農業大学と協力した継続実施が望ましい
- ・対象校において教員が農業大学と協力し環境教育授業が年2回以上実施→○
- ・各学校の自主的な環境教育の実施回数を調査
→週2回の保全活動の実施、ボランティアチームの形成
- ・活動を通し、各中学校で300ドル、農業大学で700ドル現金収入が向上する。→○

活動1 地域と連携した環境教育のための教材開発

1年目	2年目	3年目
教材開発（森林保全） 2校で4年生に教材活用	前年度教材アップデート 教材開発（ゴミ分別） 2校で5年生に教材活用	前年度教材アップデート 教材開発（農業） 2校で6年生に教材活用

活動2 環境教育プログラムの作成

1年目	2年目	3年目
年4回の環境教育実施 環境絵本の作成	環境活動実践（植林） 年3回の環境教育（植林） 年4回の環境教育（ゴミ） 分別ボックス設置	環境活動実践（植林） 環境活動実践（ゴミ） 年2回の環境教育（植林） 年2回の環境教育（ゴミ） 年3回の環境教育（農業）

活動3 環境教育継続のための体制作り

1年目	2年目	3年目
事前報告、中間研修 事業報告書作成	前年振り返り、改善 事業収益獲得	前年振り返り、改善 事業収益獲得 アンケート調査 最終報告会

Project framework

プロジェクトの枠組み



Voice from youth leader

ユースリーダーの声

最初は不安だったけど
子どもたちに教え、
地域の変化を見ることで
自信がついた！

自分の村にもっとも
必要なトピック！！
卒業して村に帰ったら
まずは自分にできることを
始めてみたい。

将来こうした
コミュニティで回せる
仕組みを作りたい！！

プロジェクトが目指す社会の実現に向けて…

ラオス国、ルアンパバン県において、環境教育システムが構築され、地域の大学と連携し、教育局、学校主体で継続的に実施され、環境教育を受けた生徒達を中心に、地域で環境保全活動の取り組みが促進される。

地域の関係行政機関との連携

地域の大学、教育局、学校に加え、天然資源環境局、都市開発局と連携。ラオスの行政機関が推進する「グリーンスクール」の認定の基準を満たす教材、ワークショップの作成を進めることができた。

中学校での自主的な環境保全活動の実施

実施校で、活動が定着し週2回の環境保全活動が実施されるようになった。参加した生徒と教員によるボランティアグループが結成された。

新たな課題

学校の周辺店舗、住民による理解、協力が必要という課題がある。今後こうした人々を巻き込みさらに上位目標の達成に近づけていく。



Next Challenge

次の挑戦



地域の人たちのプロジェクトへの参加

Next Challenge

次の挑戦



